

平成 22 年 5 月 19 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19791643

研究課題名（和文） 授乳行為の背景因子 ―卒乳にむけての支援―

研究課題名（英文） A study of the background factor during the lactation period
-The support for the natural weaning-

研究代表者

岩田 幸子（IWATA SACHIKO）

朝日大学・歯学部・助教

研究者番号：60319126

研究代表者の専門分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：歯学・社会系歯学

キーワード：授乳、母乳、哺乳ビン、卒乳、社会的支援

1. 研究計画の概要

ヒトが育っていく上で必要不可欠な授乳行為は、通常、第一乳臼歯が萌出し噛み合い、咀嚼が獲得される生後1歳6か月児には必要ないとされる。しかし、1歳6か月児歯科健診において、授乳行為を継続している母子は多く、従来から「母乳」や「哺乳ビン」は1歳6か月のう蝕発生要因として指摘されている。先行研究において、1歳6か月児で授乳行為をしている母親に授乳行為の必要性を質問した結果、必要とっていない母親が母乳群では20.6%、哺乳ビン群では35.0%認め、授乳行為をやめたくてもやめられない環境があることが推測された。そこで、本研究では、授乳行為の背景ならびに環境を調査し、乳歯のう蝕発生予防となる子どもの乳離れ（自立）を支援していくための方法を見出すことを目的とする。

(1) 岐阜市の1歳6か月児歯科健康診査を利用し、量的ならびに質的な質問票調査を実施する。

(2) 離乳完了期の母親に対し、フォーカスグループインタビューを実施する。

(3) 全国の抽出保健センターに離乳支援の現状調査（質問票）を実施する。

2. 研究の進捗状況

(1) 1歳6か月児健康診査に訪れた保護者に、質問票を配布し、返信（回収率80.0%）のあった1025名を分析した。

母乳や哺乳ビンを与える背景には、寝る時や夜中に、子どもがぐずり、与えることで子どもが落ち着き、母親が楽に思う気持ちがあった。そして母乳の場合、母親が子どもとのコミュニケーションや精神的な安心感を大切に考えており、哺乳ビンの場合は、子どもがストローやコップが使えるようになるまで、栄養面を考えて与えていた。

(2) 離乳完了期の母親に対し、フォーカスグループインタビューを実施し、ニーズ把握を試みた。

この時期の母親にとって、自然な離乳がQOLの向上に繋がり、それを促すには、『夜泣き』『睡眠不足』『乳房のトラブル』『断乳への罪悪感』などの離乳行動を遮る要因を解決し、『身近なサポート』『離乳方法』『離乳の利点の認識』『授乳に代るスキンシップの方法』などの離乳行動をとらせる要因を積極的に支援していく必要があった。

また歯科に対しては『歯を磨いてくれる』『両親学級』『フッ化物の情報提供』を望んでいた。

(3) 行政での離乳支援の実態を調査した。対象は抽出保健センター618件に質問票を郵送し、返信（回収率68.2%）のあった、保健師、栄養士、歯科衛生士の計2525名である。

離乳完了時期の指導実施者は、母乳:69.2%、哺乳ビン:87.2%であった。その考慮点は、母乳で、保健師（栄養と虫歯予防）、栄養士（栄養と咀嚼発達）、歯科衛生士（虫歯予防と咀嚼発達）であった。哺乳ビンでは、保健師（虫歯予防と栄養）、栄養士（栄養と虫歯予防）、歯科衛生士（虫歯予防と咀嚼発達）であり、職種

間で若干の違いはあるが、保健師が栄養士や歯科衛生士の考えを持ち合わせていた。一方、未指導者は、母乳で3職種ともスキンシップを重視していた。

また非常勤は常勤に比べ、話合いが少なく、同・他職種間ともに指導法に違いを感じていた。

離乳支援には、職種間や勤務体制間での見解の統一の必要性が示された。

3. 現在までの達成度

③やや遅れている。

(理由)

昨年、全国の抽出保健センターに対し、質問票調査を実施したが、回収率が当初の思惑よりも低く、再度、催促の葉書を郵送したりしていたため、データを集めるのに手間取った。また、データ入力のコストが計画よりもかかったため、平成22年度の補助金を使用したり、一部、自分自身の手入力により、データを入力しなければならない状況となり、当初の計画より研究が遅れている。

4. 今後の研究の推進方策

(1)平成21年度の全国抽出保健センター調査のデータ入力ならびに集計分析を行い、その成果を日本公衆衛生学会(東京)で発表する。

(2)雑誌論文に本研究の成果を報告する。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計2件)

・岩田幸子、石津恵津子、大橋たみえ、他7名、離乳行動に影響する授乳行為の背景分析—フォーカスグループインタビュー調査、第68回日本公衆衛生学会総会、2009年10月23日、奈良県文化会館

・岩田幸子、石津恵津子、大橋たみえ、他7、授乳継続に関わる背景因子についてのテキスト分析、第67回日本公衆衛生学会総会、2008年11月7日、福岡国際会議場